

会議録

令和 7 年度 第 2 回 とよた森づくり委員会

日時：令和 7 年 10 月 30 日（木）午後 2 時 00 分～午後 5 時 00 分

会場：豊田市役所南 51 会議室

出席者、資料：別紙

1 開会

- 挨拶（産業部・成瀬）
 - ▶ 「豊田市危険木伐採事業（家屋の裏にある危険な木の伐採事業）」等のように現在対応している課題もありますが、他にも森林の維持管理や利用の仕方について課題が多いと感じています。
 - ▶ 今年から実施している「家裏危険木の伐採事業」に関連して、森林の所有や管理についても問題が多いと感じています。
 - ▶ 本日は皆さんの意見をお聞かせいただきながら、適切な森林行政となるように進めていきたいと思います。
- 説明（森林課・井崎）
 - ▶ 委員会は委員 15 名、オブザーバー 2 名で構成されています。
 - ▶ 今期から新しく 3 名の方に委員としてご就任いただきました。
 - ▶ 豊田森林組合 代表理事組合長 川合 寿人様、トヨタ自動車（株） プラント・環境技術部 生産環境室 環境チャレンジ・CN 戦略グループ 主任 伴 邦教様、また、本日はご欠席ですが、公募委員 新美 慶様になります。
 - ▶ それでは新任の 2 名の委員の方には一言自己紹介をお願いします。
- 挨拶（川合委員）
 - ▶ これまではオブザーバーとして本委員会に参加させていただいていましたが、今回は委員という立場となります。よろしくお願いします。
- 挨拶（伴委員）
 - ▶ 弊社では、トヨタテクニカルセンター下山に研究開発施設があり、植林地を所有しています。ここでは、生態系保全を目的に間伐をしており、私は施業の計画策定等に関わっています。よろしくお願いします。
- 挨拶（森林課・井崎）
 - ▶ 本日、委員の方は 12 名出席されています。

- ▶ 欠席は先ほどご紹介した新美委員に加え、蔵治委員、新津委員の3名となっています。

2 会長・副会長の選出

- 説明（森林課・井崎）
 - ▶ 森づくり規則第2条により、委員は互選で選出することになっています。
 - ▶ 委員の皆さんから立候補または推薦があればお願いします。
 - ▶ 立候補および推薦が無い場合、事務局より候補を提案させていただきます。
 - ▶ 会長候補には横井委員をお願いしてはいかがでしょうか。横井委員は岐阜県立森林文化アカデミーに勤務し、退職後は造林技術研究所で森林施策に関わってこられました。また、これまでもとよた森づくり委員会にて会長を務めていただいています。
 - ▶ また、副会長については事務局案として川合委員を推薦します。理由は、豊田市における森林管理の代表的組織である豊田森林組合の代表を務めているためです。
 - ▶ 会長、副会長ともに、それぞれご自身を除く委員全員11名の挙手をいただきましたので、会長は横井委員、副会長は川合委員にお願いすることとします。任期は2年間です。
 - ▶ それでは、会長、副会長から順に一言ずつご挨拶をお願いします。
- 挨拶（横井会長）
 - ▶ この委員会では、毎回、活発な意見が出されてさまざまな議論が行われます。本委員会は、豊田市の森林施策に重要な位置にあります。委員の皆様には、所属の立場を生かした意見、また立場を超えた意見をいただき、市の施策が正しい方向に向かうように2年間ご尽力をお願いします。
- 挨拶（川合副会長）
 - ▶ 委員会では、森林組合の立場、山林所有者の立場から皆様と協議できたらと思っています。

※以降、横井会長にて議事進行

3 報告

（1）前回の森づくり委員会でのご意見を踏まえた対応について（資料1）

- 説明（森林課・深見）

- ▶ 現在、豊田市 100 年の森づくり構想の改定に向けて、構想に掲げる 4 つの理念を順番に議論しています。
 - ▶ 現状では構想の方向性確認の段階であり、具体的な施策や詳細設計については次年度以降に詰めて議論していく予定です。
 - ▶ 皆様の知見や情勢、世の中の潮流を踏まえ、「こういう視点を取り入れた方が良い」といった意見を賜りたいと考えています。
- 説明（森林課・井貝）
 - ▶ 条例の改正案では、木材循環利用については推奨しない方向で整理し、用語も「木材資源」から「森林資源」へ変更しました。
 - ▶ 人材の育成については各種官公庁の既存制度を活用する方向で検討しています。
 - ▶ シカの影響について、下層植生への被害を中心に、引き続きモニタリングしていきます。
- 説明（横井会長）
 - ▶ 事務局から報告いただきましたが、意見があればお願いします。
- 意見（伴委員）
 - ▶ 図 1 のシカによる下層植生への被害について、植被率が亜高木層、低木層および草本層の合計となっていますが、亜高木層は樹高が高く、そもそもシカの被害を受けない層になります。合計から亜高木層は外して集計すべきだと考えます。
 - ▶ また、実際に森林の中を歩いていると下層植物は存在していますが、毒を含む植物種やトゲのある植物種に置き替わっていると感じています。この点を踏まえると、シカの食害が植物の種の構成に影響を与えていると思います。
- 意見（古橋委員）
 - ▶ 森林において、最近は大クマの出没やシカ等によるマダニの増加が問題となっています。そのため、森林が人を寄せ付けない空間になりつつあると感じています。
 - ▶ 獣害対策は、愛知県を中心とした取り組みが多いかと思われることから、豊田市から愛知県に働きかけをしていく必要があると思います。
- 意見（オブザーバー・國松）
 - ▶ 資料 1 のシカによる被害対策をそのまま公表すると、豊田市がシカ害によ

る更新阻害への対策は行わないという誤解を招く可能性があります。

- ▶ 国や県の方針により、皆伐再造林が進む傾向にあることから、資料の表現を見直した方が良いと思います。

- 説明（森林課・深見）

- ▶ シカによる森林被害については、どの程度発生しているのかがポイントだと考えています。現時点では顕著な影響は出てきていないと捉えています。植物種の変化は確認していますが、それが森林保全に関わる崩落などの影響につながっているかどうかはまだはっきりしていません。したがって、まずはシカ害のモニタリングを進め、その状況を踏まえて今後の対応を考えていきたいと思います。ただ、今回の構想の議論の中でこの問題を中心に明文化されるかということ、そうではないという解釈です。
- ▶ クマへの対応については、現段階では回答しづらいです。これは、自然と人間との共生の問題であり、個体数を減らすべきという議論に発展してしまう可能性があるためです。
- ▶ 豊田市は皆伐再造林を否定はしませんが、推奨はしないという立場をとっています。推奨しないという意図は、国や県の補助金を活用しつつ市の補助を上乗せして間伐を進めていくということであり、皆伐再造林についても国県の獣害対策の補助事業を活用して進めていくことを前提としていますが、市費を追加投入することはしないという理解でお願いします。「皆伐再造林を推奨しない」と表現すると「市が獣害対策を何もしない」と誤解されやすいので、表現には配慮したいと考えています。

- 説明（横井会長）

- ▶ 今は構想を固めるための意見交換の場であり、文言については、今後事務局から具体的なものが示されたときに再度意見交換していきたいと思います。
- ▶ また、伴委員からも指摘のあった植被率については、モニタリングのデータを整理し直すことが必要です。これにより、植物種の変化や階層構造ごとの変化をまとめることができ、森林がどうなっているのか考えていくことが出来ると思います。

4 議事

（１）基本理念の現状と課題

（ア）基本理念３「地域づくりと一体となった森づくり」について（資料２）

- 説明（森林課・井貝）

- ▶ 「3 これまでの取り組みの現状」として、山村地域の再生や活性化に関する取り組みは山村振興担当部局が、地域や森林所有者による森林管理の取り組みは森林課が実施しています。
 - ▶ 森林管理を他者に委託したい、または森林を手放したい等という所有者（63.8%）の相談が多く、森林管理への関心の低下が示唆されます（参考1）。また、所有者自らによる森林管理（間伐）の面積も減少しています（参考2）。これらのことから、山村地域の再生や活性化に関する取り組みは他部局等に委ね、森林課としては森林所有者に代わる、新たな森林管理体制の検討に注力していく必要があると考えています。
- 意見（臼田委員）
 - ▶ 参考2では、平成20年と比べて近年の所有者自身による間伐面積が約4分の1に減っています。これをもって所有者の森林への関心が低下しているとされていますが、なぜ管理が行われなくなったのか、その背景が分かれば、今後、所有者の関心を高めるためのヒントになると思います。
- 質問（横井会長）
 - ▶ 「所有者自身による間伐面積」という括りは、森林所有者が自らチェーンソー等で間伐を行った面積を指すのか、あるいは森林所有者が森林組合等に働きかけて間伐を実施した面積も含むのか、どちらですか。
- 回答（森林課・井貝）
 - ▶ 「所有者自身による間伐面積」は、森林所有者が自らチェーンソーを持って間伐した面積が大部分を占めています。
 - ▶ 所有者の関心が低下している背景としては、これまで団地化が進み、森林管理は森林組合に任せておけば大丈夫だという理解が広がったことが挙げられます。
 - ▶ もう一つの背景は、立木が大きくなってきたため、所有者自身で間伐を行うことが困難になってきたことです。
- 回答（森林課・深見）
 - ▶ 追加で、所有者の高齢化により森林管理が困難になってきている点が挙げられます。
 - ▶ 時代とともに「儲からない」「作業が辛い」「子どもが作業を手伝ってくれない」といった要素も影響していると考えられます。
 - ▶ これらの要因が重なって、所有者自らが間伐を行う意欲や体力が低下し、管理が行われにくくなっている可能性があります。

- 質問（臼田委員）
 - ▶ 豊田市内で、団地化により森林管理の体制が整っていったことが大きな原因であれば、データの解釈は変わってくるのではないかと思います。所有者の世代が変わると森林への関心が下がるのは理解できるので、背景要因についてさらに分析を進めてほしいと思います。
- 質問（樋口委員）
 - ▶ 「5 今後の方針」で「新たな森林管理体制の検討に注力していく」と説明がありましたが、豊田市としてどれくらいの熱量で検討する予定なのかを知りたいです。
- 回答（森林課・深見）
 - ▶ 新たな森林管理体制の検討では、これまでのように森林所有者に依存した管理が、今後は維持しにくくなると想定しています。そこで、森林所有者に代わって市や森林組合、自治会等の組織が担うことができるのかといった議論が必要だと考えています。
 - ▶ 令和7年度には「森の相談窓口」を開設する取り組みを始め、前回の委員会で示した「森林信託」などの調査や国の森林管理制度の活用も含め、今後、幅広く検討を進めていく方針です。
- 意見（樋口委員）
 - ▶ 私のところにも様々な企業から相談が来ています。これらの企業は山に強い関心を持っていることから、このような企業に管理を委ねることもありえるかと思います。この方向で進める場合は企業とマッチングする相談窓口の設置が有効だと考えています。しかし、森林をメガソーラーとして開発する事例もあり、社会問題に巻き込まれるリスクについても十分に配慮してほしいと考えています。
- 説明（森林課・深見）
 - ▶ 市内の太陽光発電については、設置箇所で山腹崩壊が発生しており、市としても重大な問題だと認識しています。この数年、企業から森林を取得したいという申し出が増えており、企業が経済活動の一環として森林を活用するのは当然のことだと考えていますが、所有権を企業に移してまで活用を進めることは市として得策ではないと考えています。
 - ▶ 一方で、森林法の制度上、行政側が森林の取得やその後の開発を止めることはできません。これを踏まえ、放置される森林の所有権を移転する場合

は誰に移転させるのか、あるいは所有権を移転せずに実施できる森林管理対策にはどのようなものがあるのかを検討していきたいと思います。

- 質問（横井会長）

- ▶ 企業が森林を取得するという形と企業に CSR 活動などの形で活動の場や森林管理を担ってもらおうという形の2つがある。ただ、企業としてはどこで、何をやったら良いのか分からないことが多いことから、そのために森林と企業をつなぐマッチングの場があっても良い、という意見が出ていました。
- ▶ 確認したい点として、豊田市内では「企業の森」のような取り組みはどの程度行われているのかを教えてください。

- 回答（森林課・深見）

- ▶ トヨタ自動車をはじめ、森林で活動する企業はあります。また、豊田市有林をフィールドとして活動する企業の事例も多数あります。こうした森林活動がより活発に行われるよう、市としてもこれまで取り組んできた実績があります。

- 質問（横井会長）

- ▶ 森林と企業をマッチングする組織や仕組みが豊田市や愛知県にありますか。岐阜県だと、県庁の中にマッチングする仕組みがあり、民有林について積極的に企業の取り組みの支援をしています。

- 説明（森林課・深見）

- ▶ 市としては、森林と企業をマッチングさせる恒常的な仕組みは設けていませんが、案件ごとに市有林を企業に貸し出すことは可能です。愛知県でも県有林をトヨタ自動車関連企業に活用してもらう取り組みが行われていますが、民有林と企業をマッチングしている事例は少ないと認識しています。

- 意見（赤堀委員）

- ▶ 地域による森林管理の定義が曖昧だと思います。この資料では、「所有者自力での施業能力」を問題にしているのか、あるいは「所有者自身による管理」を問題にしているのかどちらでしょうか。そもそも所有者による管理が難しいことから、共同組織である森林組合に作業を委託してきました。自力による活動でなくても山に関わっていくという視点を持って欲しいと思っています。

- 質問（横井会長）
 - ▶ 赤堀委員の指摘のとおり、森林所有者が自ら管理作業を行う例は少ないと思います。市が実施した調査のアンケートにおいて、「所有者が年間に何回程度自分の山を見に行っているか」など、所有者の森林管理への関心度を把握できる設問が含まれていますか。

- 回答（森林課・深見）
 - ▶ いただいた質問については確認が必要であり、現時点では回答できません。なお、自伐出来る能力があるかどうかを問題としているわけではありません。
 - ▶ 豊田市全体の森づくりの基本方針は人工林の間伐を進めることであり、所有者がいる森林では間伐を行う際に所有者の意向確認と承諾印の取得が必要になります。その過程で、所有者の無関心や相続手続きの不備により、森林組合等が管理を代行しようとしても支障が生じている点が問題とされています。「森林はもういない」といった所有者の発言は、所有森林の状況を把握していないことと同義であり、森林管理の議論が進まない要因となっています。これらの課題に対する対策を検討していきたいと考えています。

- 意見（赤堀委員）
 - ▶ 事務局の説明のとおり、森林管理作業の承諾を得ようとするが無関心な所有者の割合が高い点は理解できますが、参考２のグラフを見ると「自分たちで管理していく」と回答した人が約３割存在し、これに「手放さずに管理したい」を加えるとおおむね半数程度になります。このデータのみをみると、森林への関心を持つ所有者は決して少なくないという印象を受けます。

- 回答（森林課・深見）
 - ▶ データのみを見れば赤堀委員の解釈が成り立つことは理解できますが、アンケート結果を所有者の本音としてどこまで受け止めるべきかは議論の余地があります。「誰かに管理を委託したい」と回答した人が実際に委託を進める意思があるとは限らず、「森林を手放したい」と答えた人も具体的な話になれば手放さない可能性があると考えられます。とはいえ、過去と比較すると所有者の森林への関心は低下している傾向が見られ、実際に所有者の関心の薄さが森林管理の障害となっている点は重要な問題であると考えています。

- 意見（赤堀委員）
 - ▶ いろいろな観点から意見を集めながら検討を進めていただきたいと思います。
 - ▶ なお、「自分で森林管理をしますか」と問えば「やれません」と回答するのは明らかであり、自力で間伐する所有者が減少しているのは明らかであり、参考2のグラフはあまり意味が無いと思います。
- 意見（横井会長）
 - ▶ 今回示されたデータをどのように解釈するかが重要であり、恣意的な解釈とならないように気を付けるべきです。
- 質問（横井会長）
 - ▶ 情報収集の観点から川合委員にお尋ねします。所有者から森林組合への委託管理について、所有者から10年以上の期間で森林を預かって管理する仕組みが現時点で存在するか、現時点で存在しない場合は今後そのような仕組みを導入する可能性がありますか。
- 回答（川合副会長）
 - ▶ 豊田森林組合としては、長期の受託・委託契約を設けておりません。「管理は森林組合に任せておく」との意向を示される所有者もいるものの、これに応じるための仕組みは整っていません。
- 質問（横井会長）
 - ▶ 豊田森林組合が所有者からの要望に応じて森林を買い取って、管理していく考えはありますか。
- 回答（川合副会長）
 - ▶ 豊田森林組合が所有する森林はあるものの、現時点で財産を増やす方針は考えていません。
 - ▶ ただし、所有者から「森林を手放したい」との要望が寄せられているため、豊田市と協議のうえ、当該森林の所有の在り方を検討していきたいです。
- 回答（西垣委員）
 - ▶ 豊田市内の事例ではありませんが、弊社では、所有者から「森林を手放したい」という相談が日常的に寄せられており、一例ですが、弊社が森林所有者と、所有権を移転せずに長期管理経営契約を締結して管理していくケースもあります。

- 意見（横井会長）
 - ▶ この議論は様々な取り組みの選択肢が想定され、それぞれが豊田市で実現可能か、また望ましいかを検討することになると考えます。実行可能な施策がある程度見えてこない、方向性を示しにくいと思います。
- 説明（森林課・井崎）
 - ▶ 参考 1 の結果を踏まえ、令和 7 年 7 月に「森の相談窓口」を設置しました。窓口において、森林の寄付や売買に関する相談が寄せられており、今後どのように対応していくのが適切かを検討していかなければなりません。現時点で結論は出ていませんが、市として課題と捉えています。
 - ▶ 参考 1 のデータは、令和 5 年度に実施したアンケート結果の一部を抜粋して示したものです。議論に必要であれば、次回の委員会において残りのデータも委員の皆様へ提供したいと考えています。
- 意見（横井会長）
 - ▶ 「森の相談窓口」の相談者は、積極的に森林を手放したい所有者になると思います。そのため、この窓口の相談内容が所有者や地域の問題として考えることができるかという視点も必要となります。
- 意見（鈴木委員）
 - ▶ 田畑について見ると、大規模経営体への集約が進んでいますが、中山間地域では田畑が小規模で分散しているため、集約が進まず荒廃が進行しています。
 - ▶ そこで農村型地域運営組織（農村 Region Management Organization）を組織し、農業法人として農地を集約して付加価値の高い米を消費者との契約栽培で生産し、消費者と直接つながる仕組みで運営することを目指して取り組んでいます。
 - ▶ 森林分野も同様に木の価値低下により関心が薄れる問題を抱えていると思います。そこで、森林組合のような大きな組織が集約できると良いと思います。この時、所有権移転は労力が大きいため、立木を利用する権利のみ契約出来ると良いと思います。
 - ▶ ただし、民間だけでは困難なため、本来は国でやるべきところではありますが、豊田市と森づくり委員会が連携して具体的な方策を検討・実行していく必要があります。
- 意見（古橋委員）
 - ▶ 私自身、個人および法人で森林を所有しています。ここでは個人の立場が

ら森林所有について述べます。参考 1 では、世帯単位で集められたアンケートだと思いますが、同一世帯内でも祖父と孫とで意見が分かれるため、誰が回答したかによって結果が変わると考えられます。

- ▶ 人間は、所有することによって得られる権利やメリットは享受し、義務や責任からは逃れたいと考える傾向があります。このため、森林を所有することの負担感が増している昨今では、これまで得てきたメリットや現在の実態以上に負担感を訴える声が大きくなりがちという客観的な目線も必要です。
- ▶ とはいえ、中山間地域の農地や森林を所有していることは、居住地選択や職業選択や結婚といった個人の人生の選択に少なからず制約を与え、相続時に問題をもたらすことも現実としてはありえます。こうした制約は、これだけ個人の人生の選択の自由度が高まった現代において、決して軽いものではないと考えますので、新たな森林管理体制を検討する際に参考にしていきたいです。
- ▶ 山林の流動性を高め、山林の利用を希望したり、山林に価値を感じたりする者が適切に利用・管理できる仕組みを整備することが必要だと考えています。

- 意見（横井会長）

- ▶ 異なった立場や視点から議題に対して意見をいただきました。これらを踏まえると「地域づくりと一体となった森づくり」なのか、「地域と一体となった森づくり」なのかによって解釈や方向性が変わってくると思います。

- 意見（水嶋委員）

- ▶ 地域づくりと一体となった森づくりを進めるにあたり、この委員会ではまず、「どのような地域を目指すのか」「どのような森林が望ましいのか」という目標を考えていくのか、あるいは、「地域と一体となった森」があって、それに向けての現状や課題を話し合っていくのかを明確にする必要があります。

- 質問（樋口委員）

- ▶ この議題の前提として本委員会で議論している地域づくりは、豊田市の総合計画に基づいて進められているのか、それとも総合計画とは別の地域課題に基づいているのかを明確にしていきたいです。議論の前提がどちらにあるかによって、検討すべき視点や優先事項が変わるため、まず前提の確認をお願いします。

- 回答（森林課・深見）
 - ▶ この資料は、平成 17 年に策定した森づくり条例の内容と、それに基づいて実施してきた実績を整理して示したものに過ぎません。事務局としては現時点で基本理念 3 をアップデートしたり、さらに練り上げたりする意図はなく、資料 2 の「4 課題」についても事実関係を提示しているにとどまっており、本日の資料に事務局からの具体的な提案は含まれておりません。
 - ▶ 樋口委員がお示しされた「どの方向で議論したいのか」、水島委員が示された「何を具体的に議論してほしいのかわからない」という指摘はもっともだと考えます。本日は委員の皆様から多様な意見をいただきましたので、次の委員会に向けて事務局案を取りまとめて提示する予定です。
- 意見（横井会長）
 - ▶ 次の委員会では、事務局から基本理念 3 の案を出すということでお願いします。

5 議事

（１）基本理念の現状と課題

（イ）基本理念 4 「人材育成と共働による森づくりについて」（資料 3）

- 説明（森林課・深見）
 - ▶ 資料 3 「1 「人材育成と共働による森づくり」の概要」について、資料 2 と同じような構成になっており、条例の内容とこれまでの取り組みの実績を整理しています。
- 説明（森林課・井貝）
 - ▶ 森林作業員の人手不足が深刻化すると想定されます。
 - ▶ そこで、森林作業員の確保と育成を重点課題として進め、共働、森林環境教育および普及啓発は継続して取り組むことが必要と考えています。
- 質問（臼田委員）
 - ▶ 森林組合の作業員が不足しているということですが、何名不足しているのかを知りたいです。
 - ▶ また、10 年前と比較すると現在は、20 名ほど減っていますが、減った原因を説明してください。
- 回答（森林課・深見）

- ▶ 森林作業員の採用目標は、75 名等と数字はありますが、概ね 80 名として
います。豊田森林組合の中期経営計画にも記載されており、来年の改選
時期には新たな目標設定がされます。
 - ▶ 森林作業員が減った原因としては、高齢の作業員の方が減ったことが主た
る原因です。また、森林組合が職員化するにあたって、フルタイムで働く
人とそうでない人を振り分けたことも要因となっています。
 - ▶ 前回の委員会では、森林作業員は減ったが素材生産量が増えているという
資料を示したが、それは森林作業員の数は減っても技術の質が上がったこ
とが要因だとも考えられます。これらのことを踏まえた上で 80 名程度は
必要と考えています。
- 質問（横井会長）
 - ▶ ただいまの議論の目標 80 名程度というのは現場で働く人のことだと思っ
ますが、プランナーやその他職員の数に不足はありませんか。
- 回答（川合副会長）
 - ▶ 目標人数の 80 名にはプランナーやその他の職員は含まれておらず、目標
は現場で従事する職員のみを想定しています。現状、森林組合の職員は計
120 名で、そのうち事務系職員は約 40 名です。事務系職員は約 40 名を
確保する必要があり、定年退職者の発生を見込んで、年齢構成の平準化も
図る必要があります。次期の森林組合中期計画において、事務系、現場系
職員の目標人数を明確に設定する予定です。
- 質問（伴委員）
 - ▶ 現場作業の考え方としては、作業内容の効率化や IT 化を進めることで職
員不足を解消することと考えられると思いますが、その辺りの考え方は文
面には表現されていないと思います。
- 意見（富永委員）
 - ▶ 私の周りでも伐出作業を進めている人がいます。その人は職種を聞かれて
「きこり」と答えると子供や居酒屋で「すごい」と言われるような時代にな
ってきました。時代的に林業は良い仕事になってきたのではないかと思っ
ています。また、林業をする人が増えることはいいことだと思っています。
- 意見（赤堀委員）
 - ▶ 豊田市の普及啓発として、条例上は森づくりに関する理解を醸成するため

だと思えます。

- ▶ 普及啓発のスタンスとしてそもそも森林があることを市民にポジティブに捉えてもらうことが必要だと思えます。
- ▶ 「森林を活用しないと災害の温床になる」とか、「森林管理をするためにはお金が必要だ」と言ったマイナスイメージが付きまとわないように、森林があることをポジティブに捉えてもらうキャンペーンをするべきだと考えています。

- 回答（森林課・深見）

- ▶ 伴委員からのコメントについて、IT 化等の効率化の視点は、事務局の資料からは欠落している内容であるため、改めて考えていきます。
- ▶ 富永委員からのコメントについて、林業をすることによるカッコよさの話はその通りなので、これからも普及をしていきたいと思えます。豊田スタジアムの近くで行われた伐木競技会も林業がカッコよく見える取り組みだと思うので、参考にしていきたいです。
- ▶ 赤堀委員からのコメントについては、資料 3 でも示している小学校 5 年生を対象とした「流域学習」がそれにあたります。この学習では、小学校において森林と生活の関わり学ぶ単元を矢作川流域版に置き換えて展開しています。頂いた意見を基に工夫しながら進めたいと考えています。

- 意見（赤堀委員）

- ▶ 次の森づくり構想のターゲットは、2038 年頃に主役となる現・高校生世代です。豊田市がこのような構想を策定していることを含め、次世代に向けた魅力発信を強化すると良いと考えます。
- ▶ 可能であれば、若い世代から意見を募り、その声を構想に反映させる仕組みを設けることを提案します。
- ▶ 他自治体の事例として、委員会などに地域の高校生を参加させ、意見を取り入れたことで森林への関心が高まり、結果的に林業に就職した人が出たという報告があります。

- 質問（横井会長）

- ▶ 愛知県内に農林高校はいくつありますか。

- 回答（森林課・井貝）

- ▶ 県内には 3 つあります。

- 質問（横井会長）

- ▶ それらの高校への出前事業は行っていますか。
- 回答（森林課・深見）
 - ▶ 豊田市が実施している定期的な出前事業には、高校生向けのプログラムはありません。これまでに高校側からの要望を受けて講義を行ったことはありますが、恒常的な実施には至っていません。中学校向けの出前事業もほとんど行われておらず、実施のハードルは高く、現状で継続的に実施できているのは小学校のみです。
- 意見（樋口委員）
 - ▶ 小中高では「総合的な探究の時間」が設けられており、学校側から授業の要請を受けることがあります。本年度も数件の要請があり、普通科の高校やデザイン系の高校からの依頼も含まれます。木材の具体的な使い方について助言を求められることもあります。
 - ▶ 農林高校ではありませんが、デザインコースを有する高校生に対して林業に関する講義を行った実績があります。子どもたちは実際に木に触れることで興味を持ち、大人にもポジティブな印象を与える傾向があります。また、高専の建築系学科では稲武地区で地域材の流通に関するアイデアを取りまとめる取り組みを行っており、県立芸術大学でも地域材を用いた作品制作が進められているため、地域材活用や教育連携の事例は既に存在します。
- 意見（横井会長）
 - ▶ 岐阜県立森林文化アカデミーで教員を務めていた際、入試面接で受験生の約半数が「子どもの頃にキャンプをして自然の中で過ごすことが楽しく、自然が好きになった」と述べていました。また、「森林が荒れている状況を何とかしたい」といった問題意識を持つ受験生も多く見られました。このことから、過去のフィールドでの遊び経験が長く記憶に残っていること、環境問題に対して主体的に関わりたいという意識が根強いことが示唆されます。森林環境教育の直接的な成果かは断定できませんが、自由に森林で遊ぶ機会を創出することは、森林への理解と関心を高めるうえで有効であると考えます。
- 意見（川合副会長）
 - ▶ 農林高校からの森林作業員採用を開始してから 6 年が経過しました。農林高校に求人を出しており、毎年 3 名ずつ採用しています。これまでに 1 名が退職しましたが、それ以外は定着しています。令和 8 年度に内定した

2名は女性です。

- ▶ 猿投農林高校では、愛知県の制度により夏休みに高校2年生を対象とした一日林業体験を実施しており、現場で高性能林業機械を見学する機会が設けられています。他の2校でも同様に県内の森林組合で体験を行っています。高校の求人担当者によれば、求人票を高校に出しても実際に求人票を確認しているのは学生本人ではなく保護者であり、より知名度の高い企業から順に採用が決まる傾向にあります。森林組合側は「就職すると林業大学校に進学できる」といったメリットを打ち出して採用してきました。
 - ▶ 森林組合を希望する学生がいる場合、まずは保護者の理解を得ることから採用活動が始まります。保護者は林業に対して3K（きつい・汚い・危険）のイメージを持ちやすいため、現代の林業現場が改善されている点を丁寧に説明し、納得してもらって初めて応募につながる人が多いです。採用面接で「なぜ林業に興味を持ったか」を尋ねると、高校2年生時の林業体験で高性能機械の作業が「かっこよかった」と答える方が多く見られました。一方で入社後に基礎研修を終えると、チェーンソーによる伐倒作業など現場作業への意欲を示す人が増える傾向があります。
 - ▶ 新規採用職員が地域に定住することで林業事業体の雇用が増え、結果として地域の存続につながると良いと思います。
- 意見（岡本委員）
 - ▶ 皆さんの話を伺い、自身の子ども時代を思い出しました。私の出身校には学校林があり、年に一度、下刈り・枝打ち・枯死木の撤去を行っていましたが、当時はそれらの作業が何のために行われているのか十分に理解していませんでした。作業の目的を先生から説明してもらえればよかったと感じています。豊田市の普及活動においても、座学と現場体験をバランスよく組み合わせることが効果的だと思います。
 - 意見（横井会長）
 - ▶ 先ほどの資料2の説明の中で、事務局の方から森林所有者アンケートの結果をもう少し分析すれば、もっとわかることが出てくる可能性があるとのコメントをいただきましたので、次の委員会で説明してもらおうか、メールで委員に送っていただきたいと思います。
 - 意見（森林課・深見）
 - ▶ 昨年、所有者アンケート結果をまとめたものを委員会で提供していますが、集計を工夫するとなる場合、どういう集計にするのか良いのかアドバイスいただきたいと思います。

- 意見（横井会長）
 - ▶ 質問項目が分かれば、アドバイスが可能なので、まずは私が協力できると思います。

6 閉会

- 連絡（森林課・井崎）
 - ▶ 横井会長、議事進行、ありがとうございました。委員の皆様からもコメント、情報提供ありがとうございました。
 - ▶ 事務局からの伝達事項として2点あります。1 点目として、会議録は事務局で作成して内容確認をさせていただきます。2 点目として、次回の委員会の開催を2月ごろ予定します。
- 挨拶（産業部・谷原）
 - ▶ 農林振興副参事として、農業と林業と両方担当していますが、農業にも林業にも労働者不足、獣害問題も起こっています。農業と林業の共通点を見出しながら参考にしていきたいと思いながら聞いていました。本日の意見をいただき、事務局案を出して議論を進めていきたいと思います。本日はありがとうございました。

以上